

原村では古くから機織りが盛んに行われてきました。厳しい生活を生き抜くため、ぼろ布ひとつを大切に生み出された裂織は「ぼろ機織り」の名称で親しまれ、今なおその技が大切に継承されています。地域を代表する文化のひとつであるこの裂織は、近年では全国的に隆盛を見せ、高い芸術性を持ったアート作品としても注目されるようになってきました。

2006年に始まった裂織公募展も、隔年開催を続けて今年で7回目を迎えました。入館者の投票によって決定する大賞と、芸術性・技術・伝統性など総合的多角的な視点で審査する審査員特別賞を設け、現代における裂織作品の価値と意義を評価しようとしています。今年も全国から集まった素晴らしい裂織作品をお楽しみください。

同時開催として、「野中ひろみ作品展 ～森に住みながら～」を開催いたします。

伊那市出身の野中ひろみは京都成安造形短期大学でテキスタイルデザインを学んだのち、桐生織、多摩織の伝統工芸士に師事して絹織物の技術を習得。1985年に工房「織音舎」を設立し、裂織に綴れ織の技法を用いた「つづれ裂織」で芸術作品としての裂織を追求してきました。裂織作家の第一人者として活躍しながら、原村に移住後は信州さきおりの会の代表として、長年裂織の普及活動にも注力して来ました。

本展では野中ひろみの近作を中心に展示いたします。古布のまとう過去を織り込み、信州の豊かな自然から受けた心象を綴った作品の数々を、この機会にどうぞご覧ください。

■来館者による投票期間

9月8日(土)～11月11日(日)

■授賞式 11月23日(金祝) 13:00～14:00

投票結果発表—授賞式—講評

審査員特別賞発表—授賞式—講評

審査員

高寺 政行 (信州大学繊維学部教授・国際ファイバー工学研究所長)

野中 ひろみ (信州さきおりの会代表)

佐々木 清 (全国裂織協会理事長)

小泉 悦夫 (ハケ岳美術館館長)

関連イベント



●機織り体験

9月 9日(日) ①13:00～14:30
②14:30～16:00

9月30日(日) 14:30～16:00

講師：信州さきおりの会

定員：各回2名 ※要予約

参加費：1,000円(入館料別途)

織機を使った裂織体験。約25cm程度の作品を持ち帰れます。



●粹織り体験

11月11日(日) 13:00～16:00

講師：野中ひろみ

定員：5名 ※要予約

参加費：3,000円(入館料込み)

機(はた)を使わずに、木枠を使って、自分で考えた図案の織物を作ります。

野中ひろみ プロフィール

1947年伊那市生まれ。

1966年京都成安造形短期大学意匠科テキスタイルデザインコース

卒業。故岩下順一氏(桐生織・伝統工芸士)および故中山寿次郎氏(多摩織・伝統工芸士)に師事する。

1985年、伊那市に工房「織音舎」を設立。裂織に綴れ織の技法を用いた「綴れ裂織」の独創的な世界が高く評価され、日展、日本現代工芸美術展など数々の工芸展、美術展で入選を果たす。全国裂織協会会員、信州さきおりの会代表。原村在住。



■10/21までJR小淵沢駅より直通バス土日祝日運行

◎ご利用案内

ハケ岳美術館の建物は、文化勲章受章者・村野藤吾の設計によるもので、日本建築家協会25年賞を受賞しました。曲線を多用したドーム型で、天井はレースのカーテンの絞り吊りになっています。落ち着いた柔らかな明かりの中で作品をゆったりとご覧いただけます。

開館時間：9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日：年末年始、臨時休館を除き年中無休

入館料：一般(高校生以上)／510円(460円)、

小・中学生／250円(200円)

※()内は20名以上の団体料金。諏訪6市町村の小・中学生はバスポート、図書カード、学生証などの提示により無料で入館できます。

◎常設展

美術作品：清水多嘉示(彫刻、絵画)、津金雀仙(書)
考古学資料：国指定阿久遺跡をはじめ、村内の遺跡から出土した縄文土器・石器を展示。



ハケ岳美術館(原村歴史民俗資料館)

〒391-0115 長野県諏訪郡原村 17217-1611 TEL 0266-74-2701
e-mail yatsubi1@po19.lcv.ne.jp http://www.lcv.ne.jp/~yatsubi1/
Facebook, Twitter でハケ岳美術館の最新情報をご覧ください

